

HP Operations Smart Plug-in for SAP

for HP Operations Manager for UNIX®

リリース ノート

ソフトウェア バージョン:12.00/ 2009 年 12 月

このドキュメントは **HP Operations Smart Plug-in for SAP (SPI for SAP)** についての変更の概要を提供します。リリース ノートは、製品マニュアルやオンライン ヘルプに含まれていない重要な情報を含んでいます。

[このバージョンの新機能](#)

[ドキュメントの更新情報](#)

[インストールについて](#)

[アップグレードについて](#)

[機能強化および不具合修正](#)

[既知の問題、制限事項、および回避策](#)

[ドキュメントの誤記と訂正](#)

[各国語のサポート](#)

[サポート](#)

[ご注意](#)

このバージョンの新機能

このバージョンの **SPI for SAP** には新機能、機能拡張、機能変更が含まれています。

- **SAP NetWeaver 7.1:** 新しいポリシー群により、ご使用の **SAP NetWeaver** 環境での **J2EE** エンジンの動作状態とパフォーマンスを監視できます。新しい監視ポリシーは、**SAP Net weaver Monitoring 7.1** ポリシー グループの下に追加されています。
- **サポートする管理サーバー:** **SPI for SAP** の最新リリースでは **HPOM for UNIX** の次のバージョンをサポートします。: **9.0x**
- **レポート:** **SPI for SAP** の最新バージョンでは、**HP Reporter** を利用してレポートを作成できる **NetWeaver 7.1** 用の新しいレポートテンプレートがいくつか用意されています。
 - **Opened Sessions**
 - **Transaction Count**
 - **Message Status Count**
- **Red Hat EL 5.1** プラットフォームでの **Linux x64** および **IPF 64** のネイティブ サポート。
- **SAP NetWeaver Java** スタックに対してサービス検出がサポートされます。
- **JMX** 構成に対する **TripleDES** を使用したパスワードの暗号化/復号化。
- 複数のインスタンス上で **SAP Netweaver 7.1** がサポートされます。

ドキュメントの更新情報

このリリース ノートドキュメントの最初のページには、以下の識別情報が記載されています。

- バージョン番号。ソフトウェアのバージョンを示します。

- 発行日。ドキュメントが更新されるたびに更新されます。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP パスポートへの登録とサインインが必要です。HP パスポート ID の登録は、次の Web サイトから行うことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP パスポートのログイン ページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品のサポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当に問い合わせください。

メモ: PDF 形式のファイル (*.pdf) をご覧いただくには Adobe Reader のインストールが必要です。Adobe Reader をダウンロードするには以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.adobe.com>

インストールについて

インストールの要件および SPI for SAP のインストール手順については、Adobe Acrobat (.pdf) 形式の『*SPI for SAP* インストールおよび設定ガイド』に記述されています。このドキュメントは、製品 DVD メディアの次のディレクトリに収録されています。

<DVD-Drive>/Documentation

インストール後は、ドキュメントは次のディレクトリに格納されます。

/opt/OV/paperdocs

サポートされるプラットフォーム

サポートされる HP Operations Manager、データベース アプリケーション、HP Performance Agent、HP Performance Manager、および HP Reporter のバージョンについては、サポート マトリックス (SUMA) リンクを参照してください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488>

廃止されたプログラムのアーカイブについては、廃止アーカイブのリンク

<http://intranet.hp.com/tsg/WW2/SWObsoMigrations/ObsoArchive/Pages/ArchivedObsoPrograms.aspx> を参照してください。

アップグレードについて

SPI DVD 2009 の SPI for SAP 12.00 をインストールしようとする HPOM 9.0x に、SPI DVD 2008 からインストールされた SPI for SAP 11.00 がある場合は、以下の制限に注意してください。

- HPOM 8.xx から HPOM 9.0x への移行処理は、SPI for SAP をバージョン 12.00 にアップグレードする前に実行する必要があります。SPI for SAP 12.00 のインストールが完了すると、HPOM 8.xx はサポートされません。
- HPOM 9.0x 上に SPI for SAP 11.00 (HPOM 8.xx からの移行) および SPI for SAP version 12.00 (SPI DVD 2009 からの新規インストール) が存在する状態は過渡的な状態なので、すべての管理対象ノードをできるだけ早く SPI for SAP 12.00 に移動する必要があります。
- 管理対象ノード上に複数の SPI が配布されている場合は、SPI DVD 2008 SPI または SPI DVD 2009 SPI のどちらかでノードを監視できます。SPI DVD 2008 と SPI DVD 2009 の SPI を併用してノードを監視することはできません。

- SPI for SAP 12.00 がインストールされている HPOM 9.0x システムに SPI for SAP 11.00 もある場合は、次の制限が適用されます。
 - 新しく追加した管理対象ノードは、SPI for SAP 12.00 を使用して設定する必要があります。
 - 監視対象の既存または古い管理対象ノードを SPI for SAP 11.00 で設定することはできません。

これは、SPI for SAP 11.00 の設定ツールよりも SPI for SAP 12.00 のツールが優先され、これらのツールに互換性がないためです。

- SPI for SAP 11.00 用のパッチは、HPOM 移行プロセスを開始する前にインストールする必要があります。SPI for SAP 12.00 のインストールが完了すると、SPI for SAP 11.00 に関連するパッチやホットフィックスを HPOM サーバーにインストールすることはできません。
- SPI for SAP 12.00 に関連する GUI を起動するには、HPOM for UNIX 9.0x サーバーのオペレータ GUI を起動するマシンに X-windows クライアントソフトウェアをインストールしておく必要があります。
- SPI for SAP 11.00 用のパッチが今後リリースされた場合でも、移行後の HPOM for UNIX 9.0x にはインストールできません。ただし、HPOM for UNIX 8.xx サーバーにパッチをインストールし、HPOM for UNIX 9.0x 環境に移行することはできます。
- HPOM 8.xx から HPOM 9.0x への移行後に HPOM 9.0x のライセンス レポート ツールを実行すると、エラーが報告されます。これは、予期された動作です。このエラーは無視できます。
- SPI DVD 2009 に収録された新しいバージョンに SPI for SAP をアップグレードするときに古い内容を再利用するのであれば、アップグレードを実行する前に /opt/OV/SAPSPI/bin ディレクトリの内容をバックアップしておく必要があります。SPI を新しいバージョンにアップグレードすると、/var/opt/OV/share/conf/sapspi ディレクトリ内の古い内容は完全に失われます。

アップグレードの制限

SPI for SAP 12.00 を HPOM 9.0x にインストールした後で HPOM 8.xx から HPOM 9.0x への移行を実行すると、SPI for SAP 12.00 は期待どおりに動作をしません。

回避策: HPOM 8.xx から HPOM 9.0x への移行処理は、SPI for SAP をバージョン 11.00 から 12.00 にアップグレードする前に行う必要があります。SPI for SAP 12.00 を HPOM 9.0x にインストールした後で HPOM 8.xx から HPOM 9.0x への移行を行うと、SPI for SAP 12.00 は期待どおりに動作をしません。

機能拡張と修正点

それぞれの機能拡張と修正点の詳細を表示するには、参照番号のリンクをクリックし、HP ソフトウェア サポート オンラインの Web サイトを参照してください。最初にリンクをクリックしたとき、HP パスポートの情報を入力するよう要求されます。HP パスポートのプロファイルは、次の Web サイトで設定できます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

機能強化:

このリリースの SPI for SAP では、以下の機能が強化されています。参照番号をクリックすると、HP ソフトウェア オンライン サポート Web ページ (英語) が表示されます。

[QCCR1A25801](#) : r3monale の機能強化の要望

[QCCR1A25721](#): r3monale で、メッセージ タイプに対してフィルタ処理できない

[QCCR1A25715](#) : r3monale で、メッセージ タイプについてもフィルタ処理する必要がある

[QCCR1A25791](#) : dev_rfc.trc ファイルの場所の変更

[QCCR1A25006](#) : SAPOPC_TRACEMODE 環境変数の代わりに設定ファイル オプションを使用する要望

[QCCR1A59157](#) : OVPA の統合情報とサポートの要望

[QCCR1A25850](#) : r3perfagent が起動直後に停止する

[QCCR1A25875](#) : SAP SPI で SAP GUI を起動できない

不具合修正:

このリリースの **SPI for SAP** では、以下の不具合が修正されています。参照番号をクリックすると、**HP** ソフトウェア オンライン サポート Web ページ (英語) が表示されます。

[QCCR1A25350](#) : サービス モデルが SAP クラスタを処理しない

[QCCR1A25467](#) : SAP クラスタ ノードの場合に OVOW メッセージからサービス ツリーへのマッピングが失敗する

[QCCR1A25624](#) : クラスタのサービス検出によって、間違ったホスト名で MAP が作成される

[QCCR1A25812](#) : 仮想ノードからの SAP SPI メッセージがサービス ツリーに表示されない

[QCCR1A25746](#) : r3perfmon.log ファイルが配置されるパスが間違っている

[QCCR1A25715](#) : r3monale で、メッセージタイプについてもフィルタ処理する必要がある

[QCCR1A25801](#) : r3monale の機能強化の要望

[QCCR1A72381](#) : r3mondisp が dpmonPath を検出しない

[QCCR1A91886](#) : R3PERF をアップグレードしても新しいデータソースがインストールされない

[QCCR1A92879](#) : HTTPS ノードにインストールメンテーションを配布したときに、ファイル名の衝突が検出される

[QCCR1A98184](#) : パフォーマンス モニタ メトリックの STATRECS_PERF および WLSUM_PERF のデータ収集に関する問題

[QCCR1A97931](#) : r3monusr が APSEVER の設定を無視する

[QCCR1A62345](#) : OPMODE が設定されていると、r3monwpa が CONFIG_DATA_ERROR を返す

既知の問題、制限事項、および回避策

この項では、**SPI for SAP** ソフトウェアのリリース前に修正できなかった既知の問題を列挙します。

サービス設定ファイルを HPOM にアップロード

コマンド行から、サービス設定ファイルを **HPOM** にアップロードすると次のメッセージが表示される。

```
Converting deprecated old-style service file to XML ... (please use XML in future)
```

回避策: このメッセージを無視します。

SAP GUI

SPI for SAP で定義されるオペレータ起動アクションのほとんどで SAP GUI が必要となるにも関わらず、SAP GUI は SAP SPI インストール メディアの一部ではない問題。

回避策: HPOM 管理サーバーおよび任意のリモート コンソールに SAP GUI バイナリをインストールします。SAP GUI バイナリは SAP 「Presentation」CD に含まれています。

ユーザー モニタの値が SM04 の値と異なる

コレクターにより報告されるログイン ユーザー数が、SAP トランザクション SM04 に表示されるユーザー数と異なる。

回避策: この相違は、コレクターが「itouser」をログインしたユーザーとして数えることが原因で発生します。このため、2 つのユーザー数に相違が生じます。

ホストを 2 度設定するとメッセージが重複し、パフォーマンスが低下する

snapshot タイプのモニタが重複メッセージをメッセージブラウザに送信し、SPI for SAP のパフォーマンスが全体的に低下する。

回避策: 管理ノードを、なんらかの設定ファイルで 2 度、入力していないかどうかチェックしてください。たとえば、一度は短いホスト名 (sapsystem)、もう一度は完全修飾のホスト名 (sapsystem.domain.company.com) で入力している、などが考えられます。2 度、入力している場合、モニタのバイナリは、モニタを呼び出すたびに SAP システムとの接続を 2 つオープンします。その結果、多くのリソースを消費し、メッセージを 2 度、送ってしまいます。各システムは設定ファイル上で 1 度のみ設定しなければならず、また、完全修飾名で指定することをお勧めします。

モニタのパフォーマンスが悪い

SPI for SAP モニタが SAP システムから情報を取得するのに時間がかかりすぎる。

回避策: 設定ファイルで、どの程度の頻度で CP (Contains Pattern) オプションを使っているかチェックしてください。この CP オプションは時間とシステム リソースの双方を消費します。CP オプションは可能な限り EQ オペレーションで代用してください。代用が不可能である場合は、完全修飾されていない CP オプション (例: CP*) の使用は避けてください。代わりに、1 つの文字列パターンを使って CP オプションを修飾します (例: CP MY_JOB*)。

SPI for SAP サービスがエラー 534 を報告する

一部の SPI for SAP レポートがない、または空のため、「ERROR 534」というメッセージが HP Reporter のステータス ペインに表示される。

回避策: Reporter の [検出されたシステム] の SAP R/3 グループに、使用可能なシステムがあるかどうかを確認してください。SPI for SAP のレポートには、SAP R/3 グループ内のシステムから収集したデータが表示されるため、このグループの中には、十分なデータがあるシステムが 1 つ以上必要です。

使用可能なシステムがある場合は、レポーター データベース テーブルに使用可能な必要データがあるかどうかを確認し、なければ、SAP R/3 内のシステムに対して gatherCoda コマンドを実行して、データを収集してください。

エラー 534 は、レポート データベースやテーブル構造がなかったり、古くなっている場合に発生することもあります。レポーター DSN が、正しいレポーター データベースに合わせて設定されているかどうかを確認してください。

パフォーマンス モニタから統計レコードが取得できない

SPI for SAP パフォーマンス モニタから提供される統計レコードが存在しない。

回避策: すべてのログイン情報を `r3itosap.cfg` ファイルに追加した後、SAP システムに `r3perfstat.cfg` の設定が記述されていることを確認してください。 `r3itosap.cfg` ファイルに保存した新しい設定を SAP システムに書き込むには、適切な SAP システムをナビゲーション ペインで選択し、[統計レコード書き込み] アプリケーションを起動します。これは、[SAP R/3 Admin] アプリケーション グループにあります。

サービス検出が、Microsoft Windows 管理ノード上の SAP インスタンスの検出に失敗する

サービス検出ツール `r3sd` がシステム アカウントで実行され、SAP のインストール ディレクトリが "\\server ..." のように UNC 表記で指定されている場合、Microsoft Windows を実行している管理ノードの SAP インスタンスが検出されず、R3 Info ツールは実行を完了して何も出力しない。

回避策: 環境変数 `SAPOPC_SAPPROFILEDIR` を使用して SAP インストールへのローカル パスを指定するか (SAP セントラル インスタンスでのみ可能)、HPOM エージェントを別のユーザー アカウントで実行するように設定して、UNC 表記を使用してネットワーク パスにアクセスできるようにします。

r3monjob で複数のしきい値が許可されない

`r3monjob` に対して、バッチ ジョブの実行時間が 5 分を超過した場合に注意域メッセージを送信し、同じバッチ ジョブの実行時間が 10 分を超過した場合に危険域メッセージを送信する、といった設定を行うことができない。

回避策: SPI for SAP の最新バージョンでは、特定のバッチ ジョブに対し、同一のアラートタイプに複数のしきい値を設定することはできません。

r3monpro が r3status の履歴ファイルを必要とする。

SAP プロセス モニタ `r3monpro` が監視対象の SAP システムのステータスを判定できない。その結果、SAP インスタンスが利用可能とみなし、メッセージの抑制を行わない。

回避策: `r3monpro` は、自身の履歴ファイル `r3monpro.his` に加えて、`r3status` の履歴ファイル `r3status.his` (監視対象の SAP インスタンスが利用可能かを判断するために使用) の場所を知る必要があります。どちらの履歴ファイルも、`r3monpro` の設定ファイル `r3monpro.cfg` 内で `HistoryPath` キーワードを使用して定義した場所になければなりません。`r3monpro` は `r3status.his` 履歴ファイルが見つからない場合、監視対象の SAP インスタンスを利用可能とみなし、メッセージの抑制を行いません。履歴ファイル `r3monpro.his` および `r3status.his` を同じ場所に配置し、この場所を `r3monpro` モニタに必ず知らせてください。モニタの履歴ファイルの場所は、環境変数 `SAPOPC_HISTORYPATH` またはキーワード `HistoryPath[Unix|Windows|AIX]` を使用して定義できます。

SAP Netweaver 7.0 で複数のインスタンスがサポートされていない

SAP Netweaver 7.0 で複数のインスタンスがサポートされていない。

回避策: SAP Netweaver 7.0 java インスタンスはリモート監視で監視できますが、複数のインスタンスはサポートされていません。詳細については、[QCCR1A91931](#) を参照してください。

Version Verify ツール

Version Verify tool ツールを実行するときに、足りないファイルがある。

回避策: 詳細については、[QCCR1A99193](#) を参照してください。

SAP GUI: オペレータが起動するアクションが HP-UX (IA 64) で動作しない

SAP は、HP-UX/Itanium プラットフォームでは SAP GUI をサポートしません。HPOM 管理サーバーに SAP GUI がインストールされていることを前提とする SPI for SAP 機能は、HPOM 管理サーバーを Itanium プラットフォームにインストールするときには利用できません。

ドキュメントの誤記と訂正

この項では、現行の **SPI for SAP** の製品マニュアルの誤記や不足のうち、製品リリースまでに修正できなかった内容について記述します。

以下に、『*HP Operations Smart Plug-in for SAP リファレンス ガイド*』に記述できなかった **WLSUM** パフォーマンス モニタに関連する問題を示します。

パフォーマンス メトリック:WLSUM_PERF および DOCTSTAT

SPI for SAP の新しいパフォーマンス モニタである **DOCTSTAT** および **WLSUM_PERF** がデータを収集しない。

回避策: **SAP** パフォーマンス コンポーネントから有用なデータを収集するためには、**SAP** レポート **RSCOLL00** を **SAP R/3** システムで 1 時間に 1 回実行するようにスケジューリングする必要があります。**SAP** コンポーネントの標準的なレポートやジョブのスケジューリング方法の詳細は、**SAP OSS note 16083** を参照してください。

00:00 から 01:00 までの時間帯のデータがレポートに表示されない

SPI for SAP パフォーマンス モニタ **WLSUM_PERF** によって収集されたデータを使用するワークロード レポートおよびユーザー レポートに、深夜 **00:00** から **01:00** までの期間の結果が表示されない。

回避策: これは、**SAP** と **SPI for SAP** で時間の処理方法が異なるためです。レポートの開始時間を **00:00** から **01:00** の間にスケジューリングすることは避け、**01:30** 以降にレポートが実行されるように設定してください。

SPI for SAP WLSUM レポートで、連続的なデータに不規則な値が示される

SPI for SAP WLSUM レポートで、本来は連続的であるはずのデータに不規則な値が示される。たとえば、**SAP** システムのレポートでは、通常、1 時間あたり約 **1000** のダイアログ ステップが示されますが、ある 1 時間にステップがまったく示されず、次の 1 時間では通常の倍にあたる **2000** のステップが示されるというような現象です。

回避策: **WLSUM** モニタのデータ収集は、**SAP** 内部ジョブ "**COLLECTOR_FOR_PERFORMANCEMONITOR**" に基づいています。このジョブが正しく実行されていない場合、または正しい時間に実行されていない場合、通常は **WLSUM_PERF** モニタの実行によって収集されるデータが、**SPI for SAP** パフォーマンス モニタの次の実行でのみ取り出されます。このため、データが不正な場所に表示されます。**SPI for SAP** ジョブ モニタ **r3monjob** を使用すると、**SAP** の 内部パフォーマンス コレクター ジョブ "**COLLECTOR_FOR_PERFORMANCEMONITOR**" の動作を監視することができます。

各国語のサポート

SPI のインストーラは、**ctrl.env** 名前空間に設定されている **LANG** 変数を使用して **Unix** 上の **HPOM** ロケールを取得してから、**SPI** のインストールを始めます。この設定が行われているかどうかは、**#/opt/OV/bin/ovconfget ctrl.env LANG** で確認してください。

ctrl.env 名前空間が **HPOM** によって設定されていない場合 (空の場合) は、**SPI** のインストールを開始する前に、**HPOM Server** で次のコマンドを実行してください。

```
#ovconfchg -ns ctrl.env -set LANG <HPOM locale>
```

ここで、<HPOM locale> は、**C**、**ja_JP**、**ko_KR**、**zh_CN** などです。

例: **ovconfchg -ns ctrl.env -set LANG ja_JP**

<HPOM locale> の値に応じて、**ctrl.env** 空間の **LANG** 変数が **C.utf8**、**ja_JP.utf8**、**ko_KR.utf8**、**zh_CN.utf8** などに設定され、それがインストーラで使用されます。

サポート

次の HP ソフトウェア サポート オンライン Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア サポート オンラインでは、セルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに、素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェアサポート Web サイトのサポート範囲は、次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア カスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP パスポートユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。アクセス レベルに関する詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP パスポート ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.htmls>

ご注意

© Copyright 1998-2009 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

他社のライセンス契約については、製品のインストール DVD-ROM の `spi-thirdparty-license-agreements` ディレクトリを参照してください。

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java™ は、米国における Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Microsoft® および Windows® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation とその子会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

We appreciate your feedback!

If an email client is configured on this system, by default an email window opens when you click on the bookmark “Comments”.

In case you do not have the email client configured, copy the information below to a web mail client, and send this email to **docfeedback@hp.com**

Product name:

Document title:

Version number:

Feedback:

